

2

聖徳太子と日本遺産のまち

大阪府 太子町観光おすすめコース 聖徳太子御廟から天皇陵を巡るコース

約 4 時間 / 約 6 km

※見学しながら歩く時間を想定しています。



コース概要

- 聖徳太子ゆかりの叡福寺・西方院を見学し、竹内街道を通過して「王陵の谷」と呼ばれる磯長谷古墳群の王陵をめぐるコースです。太子町には、梅の花びらが5枚であることに因んで、梅鉢御陵と呼ばれる敏達・用明・推古・孝徳天皇陵と聖徳太子御廟の5つの陵墓をはじめとした6世紀末から7世紀中頃までの古墳時代終末期の古墳が集中しています。この山あいの太子町は磯長(科長)とも呼ばれることから、これらの古墳は磯長谷古墳群とも呼ばれていますが、その多くが天皇・皇族級の大古墳が多いことから、別名「王陵の谷」とも呼ばれています。

近鉄南大阪線「上/太子駅」もしくは、近鉄長野線「喜志駅」より剛バスの運行しています。

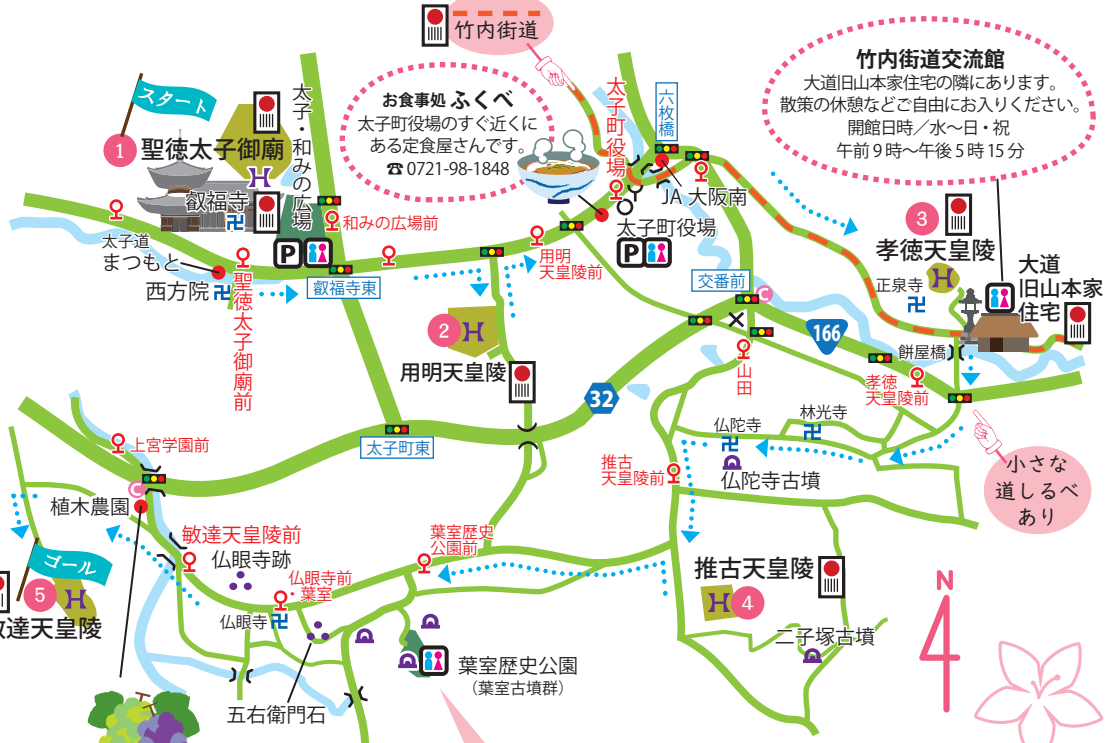
聖徳太子御廟前バス停



1 聖徳太子御廟
聖徳太子は推古天皇の摂政で、十七条憲法、冠位十二階の制定、遣隋使の派遣などで政治改革を図りました。太子墓は径50m、高さ10mほどの円墳で、内部は横穴式石室です。太子と母君の穴穂部間人皇后、妃の膳郎女の3人の棺が納められていると伝えられることから、三骨一廟と呼ばれています。



2 用明(ようめい)天皇陵
聖徳太子の父親である第31代用明天皇は、「日本書紀」によれば、磐余の池上陵に葬られますが、推古元年(593)に「河内の磯長陵」に改めて葬ったと記録されています。用明天皇陵は東西65m、南北60m、高さ10mの方墳で、幅7mの空濠の外堤までを含めた規模は、一辺100mに達します。墳丘規模や形は、蘇我馬子の墓と言われる石舞台古墳とよく似ています。



3 植木農園
太子町産ぶどうの直売店。デラウェア・巨峰・ハニーシードレス・シャインマスカットなどのぶどうと手作りジャムなども販売しています。
☎ 0721-98-5799(直売所)
ぶどうは6月中旬から8月末頃まで

4 葉室古墳群
葉室塚古墳、石塚古墳、釜戸塚古墳の三基の古墳を葉室古墳群と呼んでいます。いずれも天皇陵クラスにも匹敵する規模、構造を有する古墳であり、相当高い位にあった被葬者が想定されます。

5 敏達(びたつ)天皇陵
第30代敏達天皇は、572年に即位され、死後母君の石姫皇后の墓である磯長の陵に葬られたと「日本書紀」は記しています。敏達天皇陵は全長約93mの磯長谷では唯一の前方後円墳で、周囲には空濠を巡らせています。内部については全くわかりませんが、横穴式石室が採用されていると考えられています。また周辺から埴輪が採集され、これらから古墳時代の後期前半に築造されたと考えられています。

4 推古(すいこ)天皇陵
日本で初めての女帝である第33代推古天皇は聖徳太子を摂政にし、大陸の隋との交渉によって政治の改革や仏教文化を中心とした飛鳥文化を花咲かせました。推古天皇陵は、東西に長い三段築成の長方墳で、内部には2つの横穴式石室があると考えられています。太子町には、同様に1つの墳丘に2つの石室をもった古墳として、西約500mに位置する葉室塚古墳や南東200mの二子塚古墳が知られています。

3 孝徳(こうとく)天皇陵
竹内街道沿いに位置する第36代孝徳天皇陵は、別名「うぐいすの陵」と呼ばれる直径約30mの小さな円墳です。かつて陪塚から出土したと伝えられる、海獣葡萄鏡という鏡が知られています。

ゴールの後、「敏達天皇陵前」バス停より剛バスに乗り、近鉄長野線「喜志駅」もしくは近鉄南大阪線「上/太子駅」へ...